

被害者の視点で対策を

尼崎JR脱線・負傷者家族ら

川西で座談会
連携の重要性も確認

尼崎JR脱線事故を支援者らによる座談会
はじめ、公共交通機関など「被害者視点で考える、
で起きた事故の被害者や安全で安心できる社会」



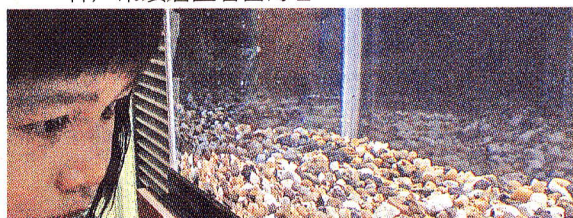
事故調査のあり方などについて意見を述べた参加者(川西市内)

が29日、川西市内で開かれた。日航ジャンボ機墜落事故の遺族でつくる8・12連絡会事務局長の美谷島邦子さんは「事故現場や残った機体を見るのはつらいが、(事故を)忘れられることの方がつらい」と話した。

JR事故の負傷者や家族らでつくる「JR福知山線事故・負傷者と家族等の会」の主催。同事務所で次女が負傷した三井ハルコさん(54)やノンフィクション作家の柳田邦男さんらが参加した。

柳田さんは「JR事故でも脱線原因を解明するだけの調査では抜け落ちる部分がある。被害者の視点に立つと、車体や車内のあり方、急力

北海道で採卵されたサケの卵に見入る子ども
＝神戸市須磨区若宮町1



サケの卵

ープの安全対策などいろいろなかことが見えてくる」と指摘した。

参加者は安全な社会の実現に向けて思いを述べたほか、事故の調査機関の現状に関する議論もあった。三井さんは「これからもこうしたつながりを大事にし、(被害者同士が)一緒に動いていきたい」と話していた。

(川口洋光)